

八王子市生涯学習審議会会議録

会 議 名	平成 30 年 3 月 八王子市生涯学習審議会
日 時	平成 30 年 3 月 23 日 (水) 午後 6 時 30 分 ~ 午後 7 時 30 分
場 所	八王子市生涯学習センター 第 2 学習室
出席者氏名	委 員 三浦眞一 岡本夢乃 石川智子 碓井恵夫 小倉艶子 加藤方浩 小林正博 丹間 康仁 永村隆 村上ひろみ
	事務局 平塚生涯学習政策課長 浅岡学習支援課長 太田中央図書館長 新納生涯学習センター図書館長 福田川口図書館長 高木主査 塩澤生主査 杉山主査 平野主事
欠 席 委 員	浅井揚三 炭谷晃男 守屋和広
議 事 案 件	議 題 ・生涯学習プランの現状、課題の整理について
	報告事項 平成 28 年度包括外部監査結果に基づく措置について 図書館サービスの基本的な考え方 (中間まとめ) 東京都市町村社会教育委員連絡協議会 関連行事について 教育委員会定例会における関連事項について
事 務 局	1 . 開 会 2 . 定足数の確認 出席者 11 名、会議の成立を確認 3 . 会議録署名委員 浅井委員を指名 4 . 11 月 1 日付異動について 5 . 議 事
	議事案件 基本施策 3・学習成果を活かし市民がつながる生涯学習の推進
	3-1・人材の育成と活躍の場の提供 前プランの中では生涯学習・高齢者活動・子育て支援、障害者の教養などのボランティアコーディネーターを養成する事業の実施と活動団体の参加の促進、生涯学習関係団体の活性化と関係団体間のネットワーク化の支援を行っている。毎年実施している生涯学習関連事業評価についても、健康づくりサポーター養成講座や、八王子城跡におけるガイドボランティアの取り組みが挙げられている。生涯学習政策課に関連した事業でいうと、生涯学習コーディネーター養成講座を開設している。そのような、講座の企画やプレゼンテーションをし、毎年 20 名ほどの方が受講している。
委 員	八王子生涯学習コーディネーター会はどのような活動をしているのか。
事 務 局	自主的にいくつか講座の企画をし、主催として市民向けの講座の運営などをする。その他、市の事業の協力なども行っている。
事 務 局	コーディネーター会については、南大沢分館で 6 月の 2 日間で生涯学習の集いイン南大沢という講座を全館貸切で行い、広報への掲載やチラシやポスター等

委 事 員	員 局	で周知をしている。 何を狙っている方々なのか。 生涯学習の八王子市の推進、いわゆる中間支援のような機能。例えば、生涯学習の企画をやりたい個人やグループが実際に実現できるような、人材育成のようなものを行っている。現状の活動としては、自分たちで講座を開催して沢山の市民を呼ぶこと、市と共同で市の事業を実施するという組織の一体化を図っている。
委 事 員	員 局	講座の企画を相談する個人と、この方々とはどのように関わられるのか。 そのような仕組みは作っていない。6月にやるイン南大沢では、実際に出展したい人に呼び掛け、出店希望者が申し込みをする。例えば講座の開催、展示物を出店する機会がある。その際の部屋の手配・時間の調整などをコーディネーター会の方が中心になって行う。
事 務 員	局	生涯学習センターについても、今後は連携して講座を実施したいと話をしている。市民企画という位置づけで、どのように連携していけるか、模索をするところである。
委 事 員	員	周知が足りないと参加する人が増えない。今後PR活動をどのようにしていくかしっかりと考えてほしい。
事 務 員	局	3-2・学びの成果を活かす機会の充実 レクリエーション活動・文化芸術活動の成果発表の場として、各種コンクールや展示発表が関連事業評価でもあげられている。
委 事 員	員	世論調査の結果で、取組の状況とその体験・獲得したことをどう活用するかについて、アンケートでは18～29歳の若い人たちは取組がいい。約50%の人が生涯学習活動をしているが、それを生かしている者の率が低い。このことについて、わかっていることはあるか
事 務 員	局	世論調査は結果後のバックデータと合わせた細かな分析はしていない。今指摘があった18～29歳という年齢層は生涯学習センターをほぼ利用しない年齢層である。その年齢層をターゲットと考えずに事業を進めてきたからだと思う。少子高齢化で考えたとき、若年層に対してのアプローチをしていかないと、子どもを育てていく世代が育っていかないとと思う。今後ターゲット別にいかに対応していくかを重視していくべき。
委 事 員	員	大学生がすごく顕著だと思う。学生時代に学んだことをその後、地域に生かす、機会がないことが関係すると思われる。年代層による取組みのあり方を盛り込んでいくべきである。
会 事 員	長 局	学園都市センターとの連携という考えはないのか。 学園都市大学との連携は始めたと前回報告している。今後学生との連携を、学生委員会の方々とどのように教育関係をとっていけるか、事務局と話しを始めた。生涯学習センターをいかに若い世代が利用するようになるか、学生の成果として、様々な講座を利用してもらい、子育て世代までつなげるような流れにならないかと模索している。
会 委 員	長 員	大学サイドとしてはいかがか。 私は大学の授業で、レポート課題として学園都市大学の公開講座に出席して感想文を書くという事をしたことがある。市民自由講座は200円かかる。学生

委員	<p>が授業として受講する場合は受講料免除としてもらうと、学生に勧めやすい。まずは、各大学で学生を公開講座に誘導。自分自身も講座を市で提供している教員に対しても何か仕組みを作ると学生も多分から社会教育施設に入りやすいと思う。</p> <p>大学のキャンパスの中だけでなく様々な場所で学びたいという気持ちは持っているが、きっかけがないので、これは一つのアイデアだと思う。大学教授と市の職員が繋がりを持つことも大事である。</p>
会長	<p>小中学生だと、これはどうなるか。</p> <p>小学生は夏に講座を例年立ち上げている。中学生対象は少ない。もう一点は夏に集中しているところが課題。小・中・高・大とターゲットを決めるべきだと認識している。実際はそこまで進めていないが、現状としては小学生が対象の遊びの講座が多い。ターゲットごとにもっと中学生や高校生など積極的に考えていくべき。</p>
委員	<p>特に子どもいちょう塾は応募者がとても多い。町田市も借りるような手法も一つのアイデアで、こちらでも場所を提供できるといい。市民活動推進部と生涯学習スポーツ部は、情報交換をし合い、講座の在り方を組んでいく必要があると思う。今後もそのような事を進めていくと、事業も企業も拡大し、受講する年齢層も拡大すると思う。</p>
事務局	<p>大学生に関しては、小学校などでサポーターとして協力をしてきている。これは教育系の大学のみならず、八王子市内の学校からフィールドに出て学ぼうとしている。自分が学ぶことでもあり、同時に社会に関わるという学びと成果の活かし方が一緒になっているのではないかと思う。そのようなことも、今後課題に混ぜて考えなければならない。</p>
事務局	<p>3-3・市民との共同による地域の活性化</p> <p>環境や国際交流が関連した啓発型イベント、八王子祭りなどの市民交流を活性化させるイベント、市民センターや児童館での市民交流イベントの実施。生涯学習の関連事業評価でも、取り上げられている。</p>
事務局	<p>基本施策4・生涯学習環境の充実について</p> <p>4-1 生涯学習情報の収集と発信</p> <p>生涯学習関連事業評価での、委員からの指摘の通り周知方法等について意見がある。</p>
事務局	<p>生涯学習情報の発信</p> <p>SNSはTwitterとFacebookによる発信はしている。利用者はあまり多くない。どのようにするか再構築しなければならない。</p>
委員	<p>TwitterやFacebookを使っている年齢層が様々。講座の情報だけ出しても興味を持たない。昔ながらの掲示板等をもっと活用できないか。駅やオリンパスホールなどの公共施設の掲示板を活用すべきだと思う。</p>
委員	<p>ホームページだけではだめ。チラシ等を配るべき。広報活動を再構築する必要がある。</p>
委員	<p>生涯学習活動の情報はどのように収集しているのか。</p>
事務局	<p>クリエイトホールは1階に情報プラザを設置している。サークルで人を集めた</p>

委員	い、ポスターを掲示して欲しいと依頼がある。市民センターにはないと思うが、設置予定はないか。
事務局	今はそれぞれが持ち込んで配っているが、市民の負担になっているかもしれない。ワンストップも考えられる。
委員	これからジョイントの仕方を研究してほしい。
事務局	Twitter を真面目に出しても若い世代に受けないと思う。警視庁など砕けたものだからこそ食いついてくれる。そういう意味では出して反応を見て、双方向になるほうがいい。学生の口コミも力があると思う。
委員	4-2 相談体制の拡充
事務局	専門相談窓口はどこかにあるのか？
事務局	クリエイティブホールだと、7 階の学習支援課の窓口を相談窓口として案内している。実態はほとんど活用されていない。専門の相談員を置いているわけでもない。
事務局	イベント開催日の相談コーナーというのも同じか。
事務局	生涯学習フェスティバルでは、相談コーナーとして館内のチラシ等にも案内が書かれている。コーナーを設けている旨を周知している。
事務局	お客さんはどんな方が来た？
事務局	2 - 3 年前に担当していた時はあまり人が来なかった。生涯学習政策課でも窓口で取り組みをしてみたい。どこに相談したらいいかという相談は受け付けている。
事務局	具体的に何をやるのか、広める方法を研究しなければならない。
事務局	生涯学習をやりたい、学びたいという方にもっと気軽に情報提供できるようになる必要がある。相談窓口の利用は決してゼロというわけではないが、多くないのが現状である。学習相談があるだけ、もっとフレンドリーな内容にしてもいいと思う。なんでも相談など、表示を工夫する必要があると思う。
会長	専門の相談員などの人材を育成する目標を掲げてきたが、集まる人も 0 にもかわらず、何らかの形で発展的に継続させる意図がないとならない。そのような意義を今度の新しいプランに持って行ってほしい。具体的に相談するとどんなことをしてくれるのか、イメージがわくような例があるといいと思う。希望した方をここに紹介して今は楽しく活動していますとか。窓口だけあっても何をしている所なのか全然イメージが湧かない。
会長	4-3・施設の有効活用と開放
会長	有効活用に関連して平成 27 年八王子生涯学習プランの策定後に八王子公共施設マネジメント基本方針が作成された。その中で市民等との協働や、公民連携による施設の活用が基本方針として挙げられている。
委員	分館の場所が分かりにくい。大きな道路を歩いていても何も分からない。看板もない。行政目線だと分かるが、市民目線だと人に聞かなければわからない。駅でたらずぐに分かるように案内があっても過剰ではないと思う。
委員	施設の活用方法の PR が大事。
委員	生涯学習プランに、生涯学習活動に取り組んでいない理由が出ているが、我々もより読書に親しんでいただく中で当然読書環境を整えること、読書活動ができる場所があることを周知すること、読書に親しむきっかけが非常に大事。今

委員	<p>の学生は大学の中だけで管理してしまっている。そこから外に出て講座を受ける。あるいは読書をするのが学生にとって利益にならないと活動の推進にはつながらないと思う。そのような学生は八王子の強みだと思っている。大学と特別な仕組みづくりをしていくことが重要で、結果的に活動そのものがいろいろな環境のPRになる。</p>
委員	<p>世論調査の地域別にみると、西側の川口の方が生涯学習に取り組んでいないパーセンテージが高い。単に地区図書室の活用だけの問題ではないと思う。そのようなところから始めて、充実していったほうがいいと思う。</p>
事務局	<p>分室化を検討委員会のようなものを立ち上げたと聞いたが現状どうなのか。検討委員会ではなく、この図書館化の推進で、担当を設置したところ。現状としては今、議会で審議しているところだが、恩方の市民センターの中にある図書室を図書館化していく方向で審議中。優先的にやっていく場所に関しては、一般的に図書館は1,5キロ圏内にあるとより利用が高まるという考えがあるので、八王子市は広い中で半径といったときに、図書館のサービス向上、まさに恩方地域の活性ということで優先順位をつけて進めている所。</p>
委員	<p>定期的にその会は持たれる？</p>
事務局	<p>会ではなく、担当を設置している。その職員が配置してある検討委員会があるというわけではない。</p>
委員	<p>甲州街道沿いのところには何か計画があるのか。分室や市民センターがなにもないが。</p>
事務局	<p>地区図書室の図書館化に関しては、整備にあたってサービスの向上地帯なのと、今まで地域図書室というのは、地域の住民協議会の方が組合している。図書館サービスを展開していく中で、地域の方に親しみを持っていただける図書館として共同でやっていく形をとっている。今まではある程度子どもたちが中央図書館に登録しているが、もっと身近に整えてあげたいという気持ちがあるので、まずは図書館サービスから離れた地域に重点的に整備していきたい。</p>
委員	<p>川口まではとても行けない、バスの便でもすごく不便。</p>
委員	<p>市民センター祭りなどやると沢山の人が集まる。</p>
会長	<p>学童の活動はすごく充実しているので、他のことができないくらい一生懸命やっていると思う。</p>
委員	<p>恩方の子どもは、市民センターに集まる。子どもが集まりすぎて困るくらい。地域性はあると思う。</p>
事務局	<p>地域的で機会を得られる差がすごくあると思う。そのあたりもう少しなんとかならないだろうか。</p>
事務局	<p>一度にというのは予算的なものがあるので、計画的にさまざまな条件で優先順位をつけながら計画的に設置していく。</p>
会長	<p>全体を通してなにか。</p>
委員	<p>生涯学習コーディネーター養成講座、完全に力がついて入門編だけですから、力が付いているわけではないという話になっていたが、生涯学習コーディネーターと言っている、専門的な力がつかない。</p>
事務局	<p>現状も毎年入門編ということでは実施しているが、入門・中級・上級と継続した講座ができればいいが、限られた中でしかできていない。現状としてはその</p>

<p>事務局員</p>	<p>辺の課題。任意だが初級が終わったら上に行くようにしてもらおうと良い。今年は初めてコーディネーター養成講座の後に講座をバックアップした。初級を受けた人の企画講座をコーディネートしてそれで初めて開催したところ。過去の経緯で期間を長く約7日の期間で講座をやっていたが、受講者が減った。今は3日にして、気軽に参加できるきっかけづくりに力を入れている。理想的には、いろんな講座を開催できれば理想系だと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>下の方の地域は防災課も出前講座のなかで地域に出ていき、学校が中心になって学校の行事の中でも地域と合同で開催し、必ず地域参加型という状況。この部分はどうかというようなご指摘はあるか？</p>
<p>事務局</p>	<p>全体を通して点検評価の際から情報のところは度々ご指摘を頂いているが、生涯学習情報だけを市民に余すことなく伝えるということが果たして正解か。例えば市民側とすると福祉の情報から様々な情報をどう得られるか。お互いに選択というわけではないが、マッチングをどうさせていくかという所に絞って考えていきたいと思っている。答えが出てこないところでもあるが。子ども家庭部側の取り組みではプッシュ型、いわゆるメールマガジンに登録しておいて、そこに定期的に配信する、情報発信の仕方としてはメルマガ登録のプッシュ型というもある。これに登録してくれさえすれば、一番情報は確実に届く方法である。</p>
<p>委員</p>	<p>どっちもわがままな言い方をすると、ほしい情報だけほしい。それぞれの担当分野で分かれているので、それぞれの中のきちんとした情報提供のシステムで、横にネットワーク化して繋がるようなシステムが必要だと思う。そうすると、小さい子どもさんのことを聞きたいと言ったら子ども家庭部が発信しているところへそのまま入っていける。あるいは図書館のことについて知りたいと言ったら生涯学習のホームページを開いても入っていけるとい、その中で詳しいことをしてあげることも可能。それぞれ専門分野が分かれているので、そのようなネットワークが可能でないかと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>Facebookは市で1本というわけではなく、部署ごとで立ち上げている。興味のないFacebookは見なくて済むが、関連という所でFacebookのシェア機能を使い、教育の部分で子どもの授業があればシェアをすれば登録していなくてもそのシェアを見ることができる。そういう所の中で関連については教育なり福祉のところからシェアをして少し情報を引っ張ってくるようなことをしている。その辺は検証し、どう展開するかということは1つの考え方だと思う。</p> <p>今日出たお話を次回までにまとめて出していただき、次回再度みなさんからご意見をいただき最終調整していただきたい。</p> <p>【報告事項】 都市社連協関連について 先日2月13日に行われた都市社連協の理事会の報告。 平成33年度、2021年関東甲信越社会教育研究大会東京大会振興計画案について。平成33年度は関東甲信越ブロック東京都が幹事市となって東京大会が開催された。平成33年度の会長市である府中市、前年の会長市である青梅市が東京都と協力して準備会実行委員会を立ち上げて準備を進めている。東京大会の運</p>

事務局	<p>営資金については都市社連協から毎年 10 万円ずつ積み立てて開催に備えている。このような振興計画になっている。</p> <p>都市社連協協議会の表彰者名簿一覧、全部で 15 名の表彰を予定している。</p> <p>都市社連協の 30 年度の年間のテーマ</p> <p>「知の共鳴～「学ぶこと」「繋がること」その先へ」が年間のテーマで、このテーマをもとに進めていく。新しい学び文化を創造したいという人の心が芽生え別の人との築きに繋がる、それが連鎖していく様子を表している。また、学びの多様性を受け入れ他者と繋がりを持ち可能性を広げその先の新たな築きに繋がるようにという思いも込めている。30 年度についてはこのテーマに基づき研修やブロック会議を開催していく。</p>
会長	<p>平成 30 年度の定期総会の議案書とアンケート・来月開かれる 4 月 21 日定期総会の議案書</p> <p>定期総会の次第。大きく分けて 1 部 2 部という構成になっている。まず 1 部は開会の言葉から始まり、表彰・議長の選出、こちらは三浦会長が務めることになっている。定期総会の議長は前年度の会長が務めるため、三浦会長が務めることになっている。最後に閉会の言葉、2 部は講演会を予定している。講師は東京大学の牧野篤先生に講演をお願いしている。</p>
事務局	<p>第 1 号議案 29 年度の事業報告。定期総会は八王子が会長市となり、東京工科大学で定期総会から始まり、役員会・ブロック会議・理事会と、その他で第 48 回の関東甲信越社会教育研究大会静岡大会にご参加いただいた。</p>
事務局	<p>続いて第 2 号議案。平成 29 年度の会計審査報告。1 枚目が収入。2 枚目が支出と 3 枚目が差引で、59 万 8988 円が次年度へ繰り越しということになる。</p> <p>参考議案</p> <p>事務局を会長の所属する市町村教育委員会内に置くというのが現状だが、教育委員会内ではなく市長部局にしているというところも踏まえ、市町村内に置くというところで改正案になっている。</p>
事務局	<p>第 4 号議案。30 年度の事業計画について。年間テーマは知の共鳴学ぶこと繋がることその先へ、このテーマで研修を進めていくということになる。定期総会、が来月の 4 月 21 日に始まり、理事会、拡大役員会、役員会、ブロック活動。特に 5 番のブロック活動については 30 年度、第 3 ブロックの八王子がブロックの幹事市ということになる。幹事市として近隣の八王子を含めた 5 市で研修会を開催することになる。幹事市として、研修内容や中身を、後程先生方からご意見を頂けたらと思っている。これは 30 年度の年間計画である。</p>
事務局	<p>社会教育研究大会の参加</p> <p>第 49 回関東甲信越社会教育研究大会、30 年度は長野大会になる長野県の長野市で開催予定。</p> <p>第 5 号議案。収入予算額は合計で 134 万 9 千円を予定している。特にブロック活動費は、30 年度八王子市が幹事市となるので 6 万円の経費でブロック会議を活動するということになる。都市社連協の積立金から毎年 10 万円東京大会に向けて運営していくための支出となる。</p>
事務局	<p>第 6 号議案。30 年度の役員市。30 年度は会長市が武蔵野市、副会長市が三鷹市・</p>

事務局	<p>青梅市となっている。ブロック幹事・第三ブロックが30年度は八王子市となる。</p> <p>協議事項 表彰の基準について申し合わせ</p>
事務局	<p>表彰については、規則では定めてあるが細かい部分を定めていないため、細かい規定を定めることになる。表彰の枠を超える場合は社会教育委員等としての在任期間が長い者を推薦する、活動内容を考慮して決定をするなど細かい規定を定めることになる。</p>
事務局	<p>協議事項6 ブロック活動費についての申し合わせ</p>
事務局	<p>ブロック活動費については、基本的には使い切りになる。余った場合の取扱いについて規定がなかったのでその決まりを作ることになる。30年度だと、6万円を概算払いして決算で5万円だしたら5万円の余った1万円を精算して返すというような決まりを作る。</p>
事務局	<p>年間の計画表</p>
事務局	<p>役員会・拡大役員会、理事会、総会・交流大会が年間の計画になっている。4月21日に定期総会を立川で予定している。また、理事会や交流会などを予定している。報告は以上。</p>
事務局	<p>都市社連協に関連して、様々な研修や大会を皆様からご提案いただき、それについてご勘考をいただきたい。30年度は幹事市ということで、どういったテーマがいいかということだが、ご出席をいただいたなかで印象に残っていたものはどのようなものなのかということ。</p>
委員	<p>私はニュータウン南大沢に住んでいる。いろいろな地域性があって100周年をやったが、やっと私たちは35周年という所に住んでいる。これからの世代がどんな風に街づくりに関わってくるか、そのようなところでは、多摩ニュータウンまちづくり委員が進んでいる。今日話を聞いていて、生涯学習という視点からもコミュニティや、新たな街づくりという、今まで私たちは東京都が作った町に住んで、ある程度マニュアル通りに住んできたわけだが、やっと35周年経って今度は自分たちで自分たちの町をどうしていくかということに戻ったと思う。私は今回の八王子市が取り組んでくれている多摩ニュータウン町再生という大きな取組はとても関心があるし、今まで関わってきた中から新たな関わりをどんな風にするのかいいものになりそう。</p>
委員	<p>前回の幹事の日野市の公園もちょっと古びていたけれども今再生している。公園の園長さんも行き、今見直されている。地域で生まれてまたそれを活かそうとしているもの、あったものをさらに新しく生まれ変わらせようというようなアプローチがいいと思う。八王子もそれをどういう風にしているのか、100周年の中でも私は学校関係のことしか分からないが、どういう風に100周年の中で活かそうとしているのか、昔からの絹の道を始め、あった物をどう活かしていくのかがあればいいと思う。例えば、この間テレビで小学校の入学式、京都府で、和服姿でみなさん卒業証書ももらっていて、ただそのようなイベントではなくて、市場産業である物を全国に、子どもたちの将来のためにということをやったと伺った。八王子でこれまであった物を今どういう風に活かそうとしているのか、それが分かればそういった部分を活かせると思う。</p>
委員	<p>八王子もいろいろな所を探すと、織物のネクタイを作ったりしていたし、そのようなことを活かしていけば、子どもたちが知らない八王子をもう一回見直せ</p>

委員	<p>るのかなと思う。</p> <p>こども科学館は機械を入れ替え、新たにスタートした。そういったものを修繕し、都市の方にも見ていただけたら。宇宙についての話、我々も新たな時代になると海外だけではなく宇宙の話をするような時代に入ってくるのだろうと思うが、生涯学習審議会にしてもそういった知識を取り入れても良いと思う。</p>
事務局	<p>教育委員会定例会に関する報告</p> <p>生涯学習審議会に関するものとしては、図書館に関する話がでたが、分室を図書館にするような内容となっている。新たな集いの拠点については、この審議会でも前々回くらいに医療刑務所の跡地に関しての交渉ということで。内容について基本計画の素案ができてきているような状況。新郷土資料館についても、基本構想という。こちらは主に文化財の審議会が紹介している内容。</p>
事務局	<p>その他の報告事項については青少年海外交流。今年は台湾高雄市に行ったとか、成人式、読書感想文の実施の報告になっている。先ほど少し文化財の内容の話になったが、文化財課の中に歴史文化基本構想というものを八王子で高めていこうという中で、文化財課で専用の部署を作り、八王子の文化財を、活用という部分をどうやっていくか基本計画を作ってやっていく。併せて日本遺産への進出を目指していく専用の部署を4月から立ち上げてやっていく。国の制度で2020年までの募集をとっているなので、あと2年くらいの期間の中で八王子で何か申請できるものがないか、きちっと担当を決めて取り組んでいく。</p>
事務局	<p>社会教育主事に関する法令の改正について</p> <p>社会教育主事養成の見直しに関する今後の予定。これは情報提供ということになる。法令規定の改定内容については、現在ある社会教育主事の養成の課程。または課目内容を見直して、この単位を取得し、修了証書を授与されたものが今度は社会教育士と名乗れるというのがこの改正の内容になっている。その背景には教育基本法や社会教育法の改正、社会教育主事の役割や今後の期待など、に基づいて改正されたものとなっている。社会教育主事であって人づくりや地域づくりの中核的な役割を担うことができるよう、基礎的な資質・能力を養成するため、養成課目の改善を図る。</p>
会長	<p>他に質問や意見が、無いようであれば、次回の会議日程は6月とし、本日の会議は以上をもって終了とする。</p>
	<p>6. 閉 会</p> <p>上会議録は事実と相違するところがないことを認め、下に署名する。</p>
	<p>八王子市生涯学習審議会会長</p>
事務局	<p>八王子市生涯学習審議会委員</p>